

令和7年度音楽科 教科研究会

静岡大学教育学部附属島田中学校
教諭 杉浦 崇文

音楽的な“見方・考え方”を深める
鑑賞活動の創造

音楽的な“見方・考え方”を深めるとは

音楽を多面的にとらえることが必要

- 音楽の素材としての音（音色、音の質感など）
- 音楽の構造（リズム、旋律、テクスチュア、強弱など）
- 喚起されるイメージや感情（「切ない」「祈るような感じ」など感性の働き）
- 文化的・歴史的背景や他芸術との関わり（オペラや詩との関連、その時代の社会背景）
- 表現・批評の観点（なぜそのように感じたのかを根拠をもって言語化する）

第1時 「my music」をさぐる

- クラシック、邦楽、現代音楽など多様な5曲を鑑賞し、「my music」になりうる曲を見つけていく。

	特徴
1曲目	海の上を船で進んでいるようなイメージ(最初) → 荒々しく、恐くもあり楽しさを感じる。ワクワクする 途中、途中で悲しい感じになる → テンポが早いので冒険をしているようなイメージを持つ。
2曲目	音が「高くなる所」が特に強調されているように感じて、全体が「高」といえるように思える(最初) 美しい感じがする → 高い音が「特に」。 → 順次進行するため、なめらかで美しく感じる。雪原の中のイメージ「高い音が雪の結晶が」光っているように感じる。
3曲目	日本感が強い 梅がぶらぶら舞っているような感じ(静か) 時代付きの戦闘シーンのBGMのよう。→ かわい! たくまの音があるため 印象に残る → 特徴的 音が大きい
4曲目	ごうかむ感じ 壮大 ゆくりとしたメロディー 特に印象に残らなかつた。
5曲目	アフリカの民族 独特なメロディー 途中、途中で近づいた 短い 打楽器に民族感がある おもしろい 途中のセリフが不思議な感じを増やしている

第2、3時 「my music」を深める つくる

- 楽譜を示し、音楽の分析を促す。さらに題名や作曲家から背景を調べ、分析を深める。

「my music」をつくろう②

3年

<p><u>選んだ番号</u></p> <p style="text-align: center;">④</p>	<p><u>曲名</u></p> <p>カヴァレリア ルステカ-十 間奏曲</p>
<p><u>印象</u></p> <p>・テンポニ-マロ (シンテレラ)</p> <p>・物語 エンディングマロ (ハッピーエンド)</p> <p>・<u>ゆったりと時が流れている</u> - 思い出が懐かしい</p> <p>・<u>夜・星空</u> (休晴)</p> <p>・<u>神秘的</u></p> <p>・青 - 神秘的</p> <p>・海・波 深いところまで入っていき、船が波に揺られている。女臣と王子さま</p> <p>・<u>緩い</u> (ロンド)</p>	<p><u>音楽の特徴</u></p> <p>・テンポがゆっくり <u>明るい?</u></p> <p>・音が重っている</p> <p>・伴奏の主張がはげしくない (調和して?)</p> <p>・音が高い</p> <p>・同じメロディのくりかえしが多い</p> <p>・音が高くなる時に盛り上がる</p> <p>・バオリンが主役 (弦楽器)</p> <p>・順次進行が多い</p> <p>・セ-ア-マ-セとセ-ア-マ-セ <u>強弱がはっきりしている</u></p>
<p><u>背景など</u></p> <p>オペラの間奏曲</p> <p>シチリア島の復活祭の朝を舞台にした劇</p> <p>細潔に描かれて... 不倫をして相手が殺されてしまう。 => バイオエッセ</p>	<p>カヴァレリア・ルステカ-十</p> <p>田舎の騎士道</p> <p>殺される前に流れる曲 => 心にせん</p> <p>非劇の前の過時的、それまでの平凡さと、世にさか。 激怒の直後</p>

観客をたどる。背景をたどる。この曲が描いた感じ。 知った後

2回楽しめる曲 星空の夜、ゆったりと時が流れている。神秘的な雰囲気 => 悲しい曲。嵐の前の静けさ。この後の悲劇を予感して、主人公がどうも申し込んで人の感情をわく。

「my music」をつくろう②

3年

<p><u>選んだ番号</u></p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">3</p>	<p><u>曲名</u></p> <p style="font-size: 1.5em;">手専 第3楽章「輪古」</p>
<p><u>印象</u></p> <p>日本感が強い 激しくも美しい感じ</p> <p>桜の咲きの中 ↳時代劇の戦闘のBGM</p> <p>印象に残る 存在感が強い</p> <p>力強い感じ</p> <p>2分5秒から J-popみたい</p>	<p><u>音楽の特徴</u></p> <p>速いテンポで同じリズムを繰り返す</p> <p>音が細かい → たくさん動く</p> <p>日本の伝統的な器が使われている</p> <p>同じリズムを繰り返している → ただの反復ではなく 順序進行</p> <p>↳ この二つが糸目合わさってかきこえる感じが強い</p> <p>最後がより強調し 糸の終わりがきこえる</p> <p>↳ アラビヤ、インド 西洋の音楽と日本の音楽に通じる所がある</p> <p>提示部 展開部 再現部 序 破 急</p> <p>↳ リズミカル、似たリズムと少し変化したリズムが繰り返すことで J-pop のように感じる</p>
<p><u>背景など</u></p> <p>1946年作曲</p> <p>↳ 終戦後の激動の時代 荒廃した世の中で古典音楽の持つ普遍的な美しさを見直し新音楽を生みだそうとした</p>	<p>宮城道雄</p> <p>↳ 伝統的な邦楽を深く敬愛していた</p> <p>西洋音楽の技法を取り入れたが 時代にあつた邦楽の創造に尽力した</p> <p>西洋の華やかさ 日本のが強さが 高融合</p>

第4時 「my music」を広める

- 生活班（6人）で発表し、動画を提出させた
（別ファイルで音声を公開しています）

生徒の振り返りから

音楽を多面的に読み解く力（分析・解釈）

- 初めに聞いた印象を、題名・楽譜・背景と結びつけて、より具体的に根拠的に説明できるようになった
- 曲から感じることと楽譜の記号を結びつけて、曲全体の変化の理由について考えられた
- 印象と実際の音の違いから、自分がなぜそう感じたのかを考える力が身についた

楽譜・構造・音の特徴・印象・背景など、さまざまな視点を関連づけながら曲を深く理解し、自分の感じ方を根拠をもって説明

音楽をことばで伝える力

- 音楽の好きな細かいところを言葉で表現し、人に伝える力がついた
- どこが好きなのかを分かりやすい言葉で説明したり、伝わる表現を工夫できるようになった
- 分析した特徴と自分の感じたことを結びつけて、相手に伝わる形で説明できるようになった

自分が捉えた特徴や感じた価値を音楽的語彙で整理し、
誰にでもわかる形で発表・言語化